

資料編



かほく市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(目 的)

第1条 地域福祉活動の推進に向けて、幅広く市民及び関係者の意見や意向を取り入れ、かほく市地域福祉活動計画（以下「活動計画」という。）を策定するため、かほく市地域福祉活動計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

(任 務)

第2条 策定委員会は、次に掲げる事項について調査及び研究を行ない、かほく市社会福祉協議会長（以下「会長」という。）に報告するものとする。

- (1) 活動計画の策定に関すること
- (2) その他、必要な協議に関すること

(組 織)

第3条 策定委員会は、委員15名以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから会長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 地域活動団体等関係者
- (3) 社会福祉事業関係者
- (4) 行政関係者

(任 期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日から活動計画の策定が完了した日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 策定委員会に委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選をもって定める。

3 委員長は、策定委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会 議)

第6条 策定委員会の会議は、必要に応じて委員長が召集する。ただし、委員の委嘱又は任命後の最初の会議は、会長が召集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 策定委員会の必要に応じ、委員長が適当と認める有識者等を招致することができる。

(補助機関)

第7条 策定委員会の補助機関として、活動計画に関する必要な調査、研究及び情報の収集、整理を行うため、作業部会を設置することができる。

(庶務)

第8条 策定委員会の庶務は、かほく市社会福祉協議会において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるほか、策定委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成24年11月 7日から施行する。

この要綱は、平成30年 4月 1日から施行する。

第2次かほく市地域福祉活動計画策定委員会 委員名簿

(順不同、敬称略)

No.	区 分	所 属 等	職名	氏名
1	学識経験者	石川県社会福祉協議会 地域福祉課	課長	八戸 大紀
2	地域活動団体等関係者	かほく市町会区長会連合会	会長	◎ 油野 和能
3		七塚地区民生委員児童委員協議会	副会長	北川 重樹
4		宇ノ気地区民生委員児童委員協議会	会長	鈴木 敏徳
5		高松地区民生委員児童委員協議会	会長	○ 羽田 良一
6		かほく市各種女性団体連絡協議会	会計	油野 そとえ
7		かほく市老人クラブ連合会	副会長	渡邊 利彦
8		かほく市ボランティア連絡協議会	会長	多々見 邦次
9		かほく市身体障害者福祉協会	会長	塚本 誠次
10		かほく市手をつなぐ育成会	副会長	梶谷 鉄男
11		社会福祉事業関係者	社会福祉法人相生会 あかしあ荘	施設長
12	社会福祉法人芙蓉会 ことぶき園		施設長	山副 勝也
13	社会福祉法人四恩会 ライフクリエートかほく		管理者	岡田 文貴
14	行政関係者	かほく市 市民部 健康福祉課	課長	越井 謙一

◎:委員長 ○:副委員長

～かほく市地域福祉計画策定に係るアンケート～

- ・ 調査対象者 かほく市在住の18歳以上の在宅の市民を無作為に抽出
- ・ 調査方法 郵送による配布・回収（返信用封筒を同封）
- ・ 調査期間 平成29年6月19日～30日

・調査の概要

	男性	女性	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代 ～
母集団	12,972	13,337	812	3,321	3,802	5,275	3,944	5,073	4,082
抽出数	496	504	33	117	124	189	144	220	173
抽出率	3.8%	3.8%	4.1%	3.5%	3.3%	3.6%	3.7%	4.3%	4.2%
回答数	157	231	2	27	41	74	52	99	101
回答率	32%	46%	6%	23%	33%	39%	36%	45%	58%
	未回答	12	未回答	4					

◆抽出数 : 1,000人 回答数 : 400人 回答率 : 40%

◆調査対象者の抽出について

- ・ ほぼ均一に抽出されている。

◆回答者の傾向について

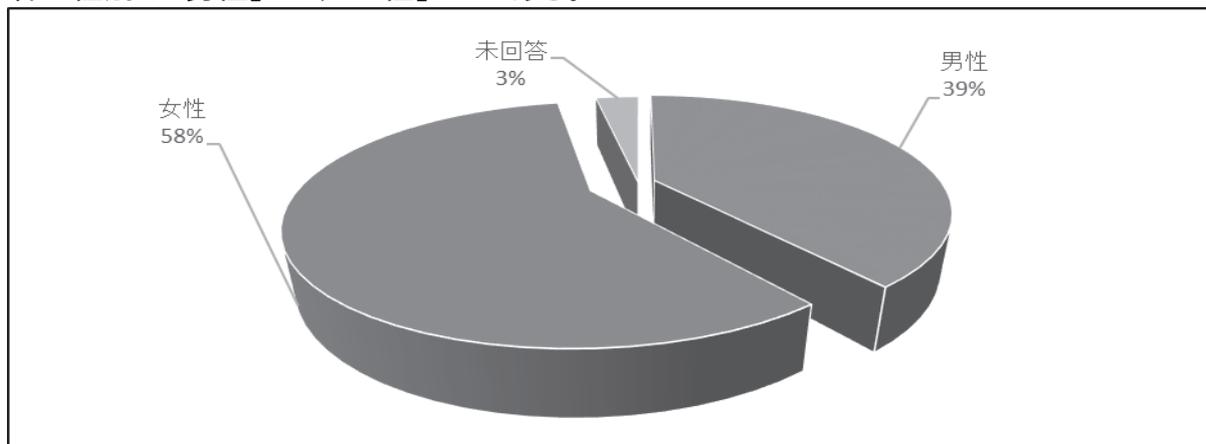
- ・ 女性の回答率が高い
- ・ 10代、20代の回答率が低い
- ・ 60代の回答率が高い

第2次かほく市の「地域福祉計画」づくり市民アンケート調査結果

■あなたご自身について

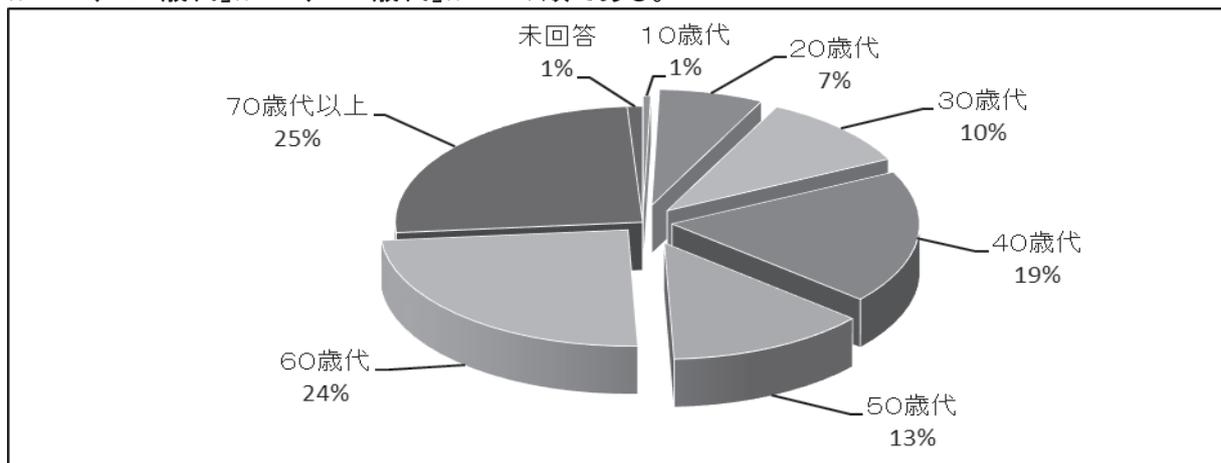
【問1 あなたの性別は？】

者の性別は「男性」39%、「女性」58%である。



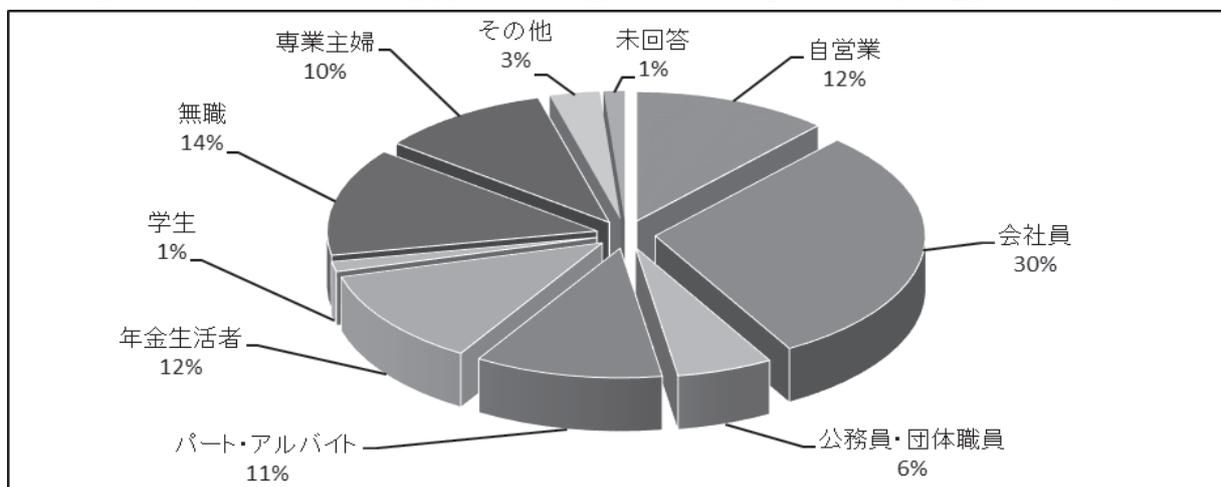
【問2 あなたの年齢(満年齢)は？】

回答者の年齢は、「60歳代」と「70歳代以上」がともに25%で、「40歳代」が19%、「50歳代」が13%、「30歳代」が10%、「20歳代」が7%、「10歳代」が1%の順である。



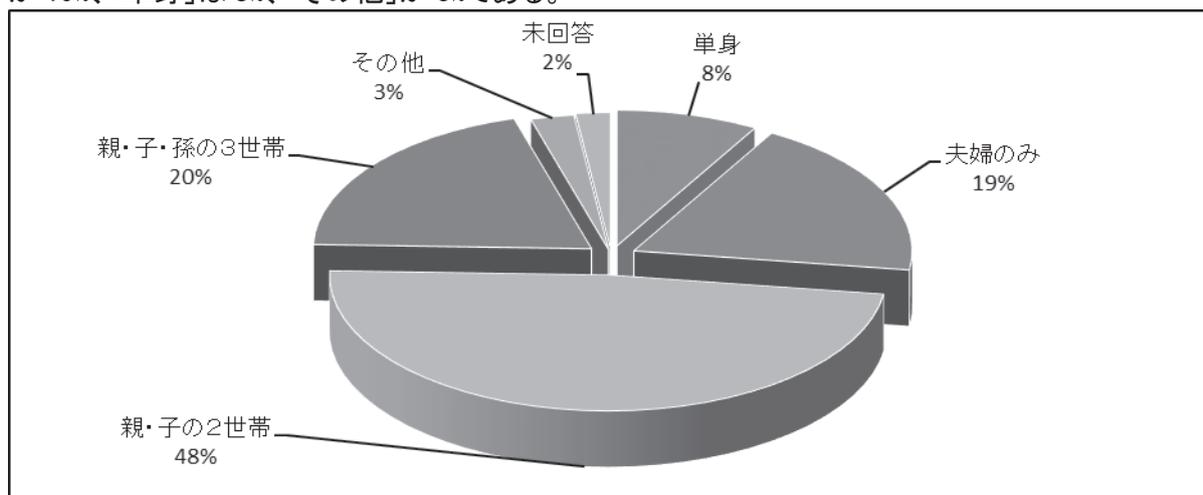
【問3 あなたの職業は？】

回答者の職業は、「会社員」が30%で最も多く、「無職」、「自営業」、「年金生活者」、「パート・アルバイト」、「専業主婦」が10%代の前半で、「公務員・団体職員」が6%、「学生」が1%、「その他」が3%である。



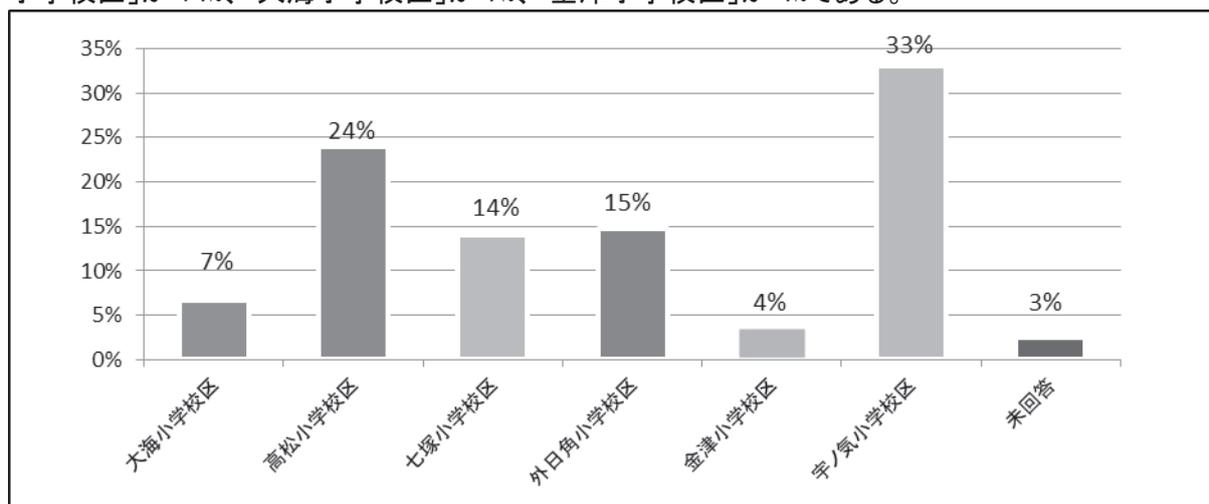
【問4 あなたの家族構成は？】

回答者の家族構成は、「親・子の2世帯」が48%と最も多く、次いで「親・子・孫の3世帯」が20%、「夫婦のみ」が19%、「単身」は8%、「その他」が3%である。



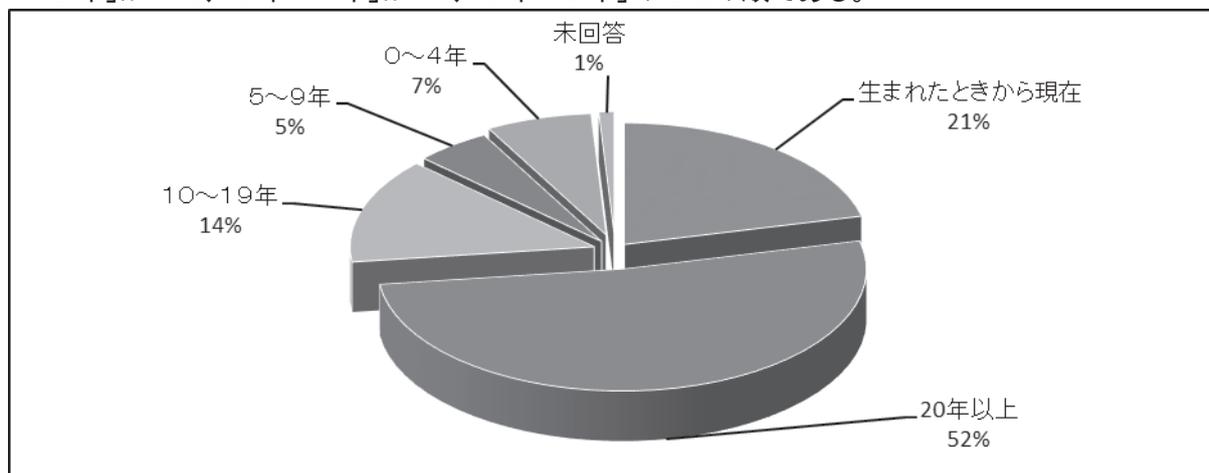
【問5 居住学区】

回答者の居住学区は、「宇ノ気小学校区」が33%、「高松小学校区」が24%、「外日角小学校区」が15%、「七塚小学校区」が14%、「大海小学校区」が7%、「金津小学校区」が4%である。



【問6 あなたの住まいでの通算の年数は？】

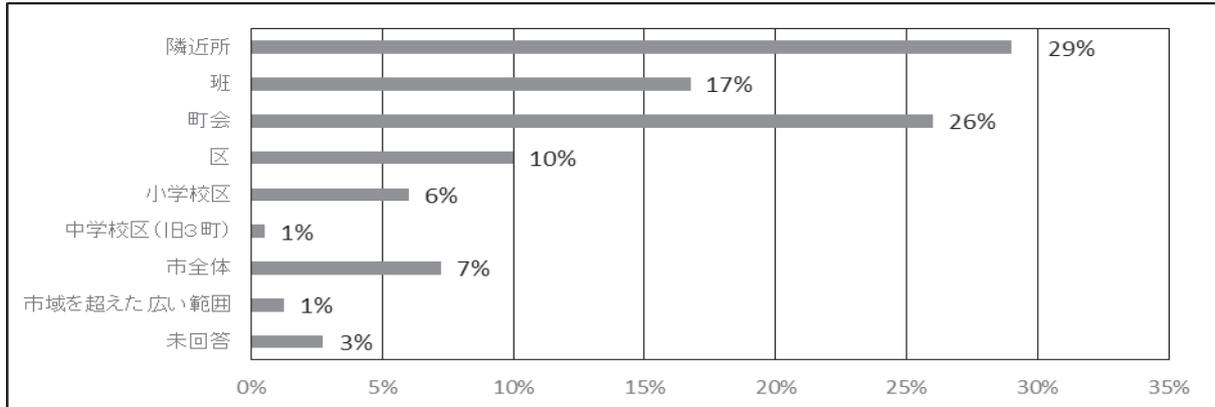
回答者の住まいでの通算年数は、「20年以上」が52%で最も多く、次に「生まれたときから現在」が21%、「10年～19年」が14%、「0年～4年」が7%、「5年～9年」の5%の順である。



■地域との関わりについて

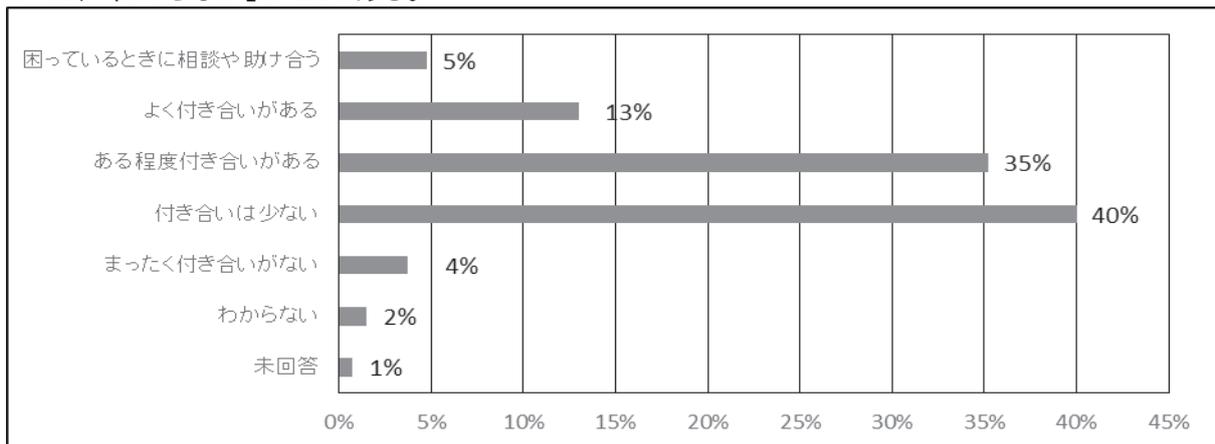
【問7 あなたの地域(安心して手助けを受けられる、手助けができる範囲)はどんな範囲?】

安心できる地域の範囲は、「隣近所」が29%、「町会」が26%の順で、「班」が17%、「区」が10%、「市全体」が7%、「小学校区」が6%、「市域を超えた広い範囲」と「中学校区(旧3町)」がそれぞれ1%である。



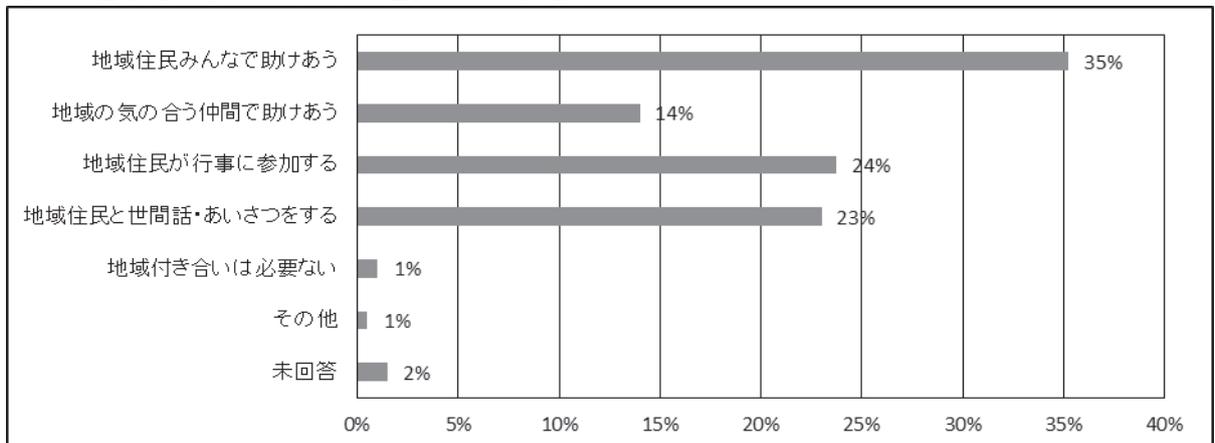
【問8 あなたの日頃の地域での付き合いの程度は?】

日頃の地域での付き合いの程度は、「付き合いは少ない」が40%で最も多く、「ある程度付き合いがある」が35%、「よく付き合いがある」が13%、「困っているときに相談や助け合う」が5%、「まったく付き合いがない」が4%、「わからない」が2%である。



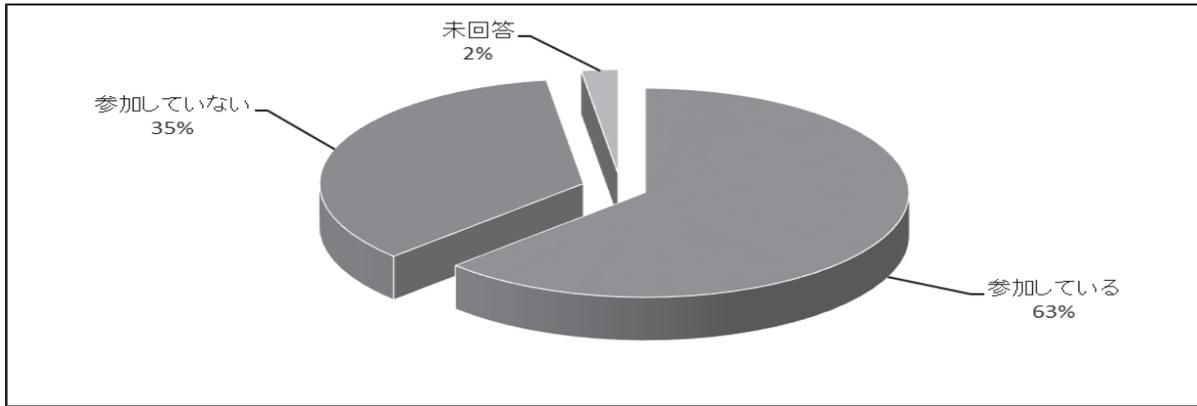
【問9 あなたは地域の付き合いはどの程度が望ましいか?】

地域での付き合いは、「地域住民みんなで助けあう」が35%で最も多く、「地域住民が行事に参加する」が24%、「地域住民と世間話・あいさつをする」が23%で、次に「地域の気の合う仲間で助けあう」が14%、「地域の付き合いは必要ない」が1%、「その他」が1%である。



【問10 あなたはお住まいの地区で地域活動や行事の参加は？】

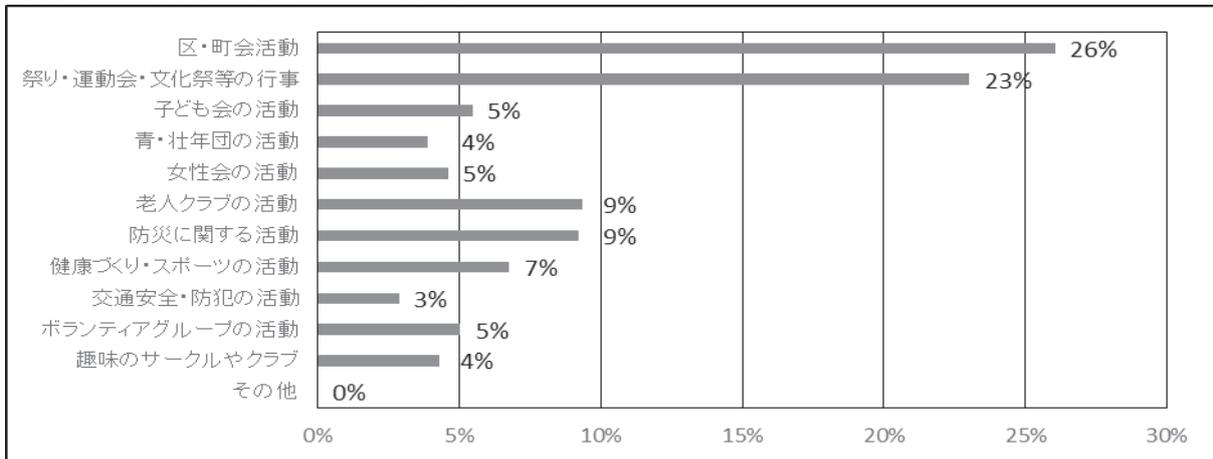
地域活動や行事について、「参加している」が約 1/3 の 63%であり、「参加していない」が 35%である。



【問11 問10で「参加している」方の地域活動や行事は？】

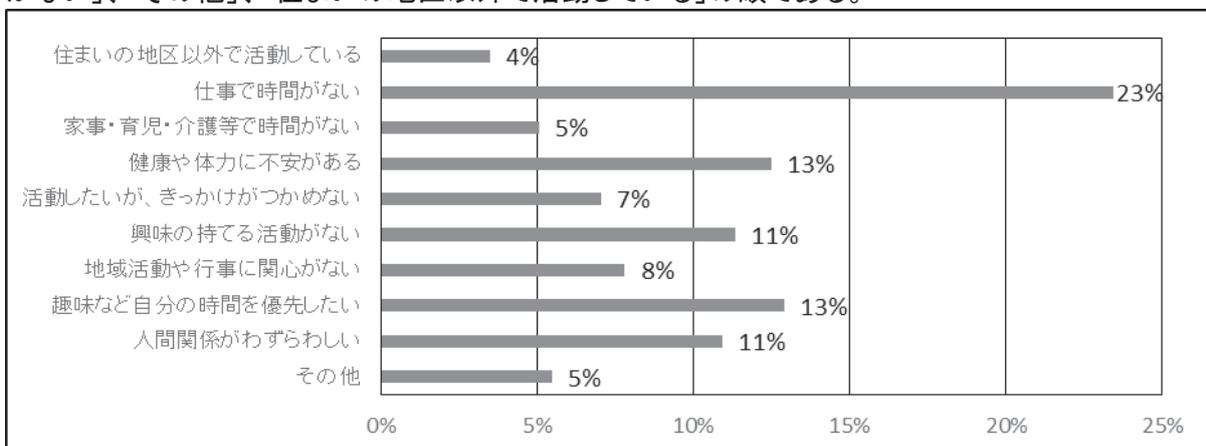
「区・町会活動」が 26%と「祭り・運動会・文化祭等の行事」が 23%でほぼ半数である。

「老人クラブの活動」と「防災に関する活動」がそれぞれ 9%で、「健康づくり・スポーツの活動」、「子ども会の活動」、「ボランティアグループの活動」、「女性会の活動」、「趣味のサークルやクラブ」、「青・壮年団の活動」、「交通安全・防犯の活動」の順である。



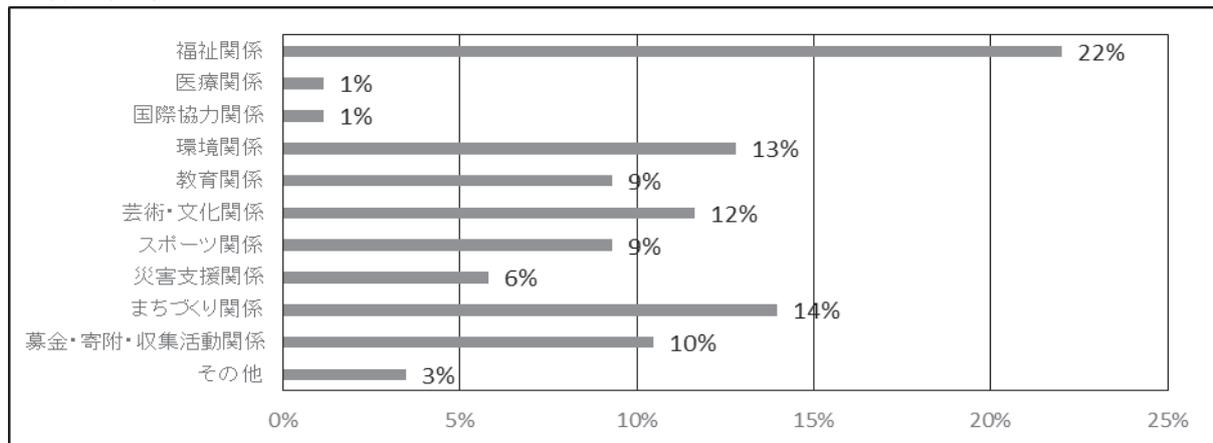
【問12 問10で「参加していない」方の理由は？】

参加していない理由は、「仕事で時間がない」が 23%で最も多く、「趣味など自分の時間を優先したい」と「健康や体力に不安がある」が 13%、「興味の持てる活動がない」と「人間関係がわずらわしい」、「地域活動や行事に関心がない」、「活動したいが、きっかけがつかめない」、「家事・育児・介護等で時間がない」、「その他」、「住まいの地区以外で活動している」の順である。



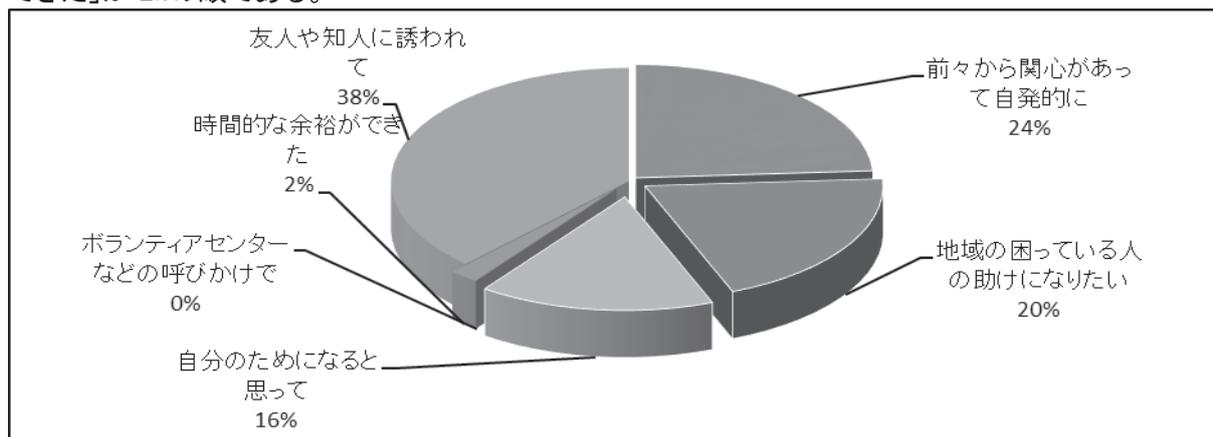
【問13 問11で「ボランティアグループの活動」に参加した方はどの関係ですか】

「福祉関係」が22%で最も多く、「まちづくり関係」、「環境関係」、「芸術・文化関係」、「募金・寄付・収集活動関係」、「教育関係」、「スポーツ関係」、「災害支援関係」、「その他」、「医療関係」、「国際協力関係」の順である。



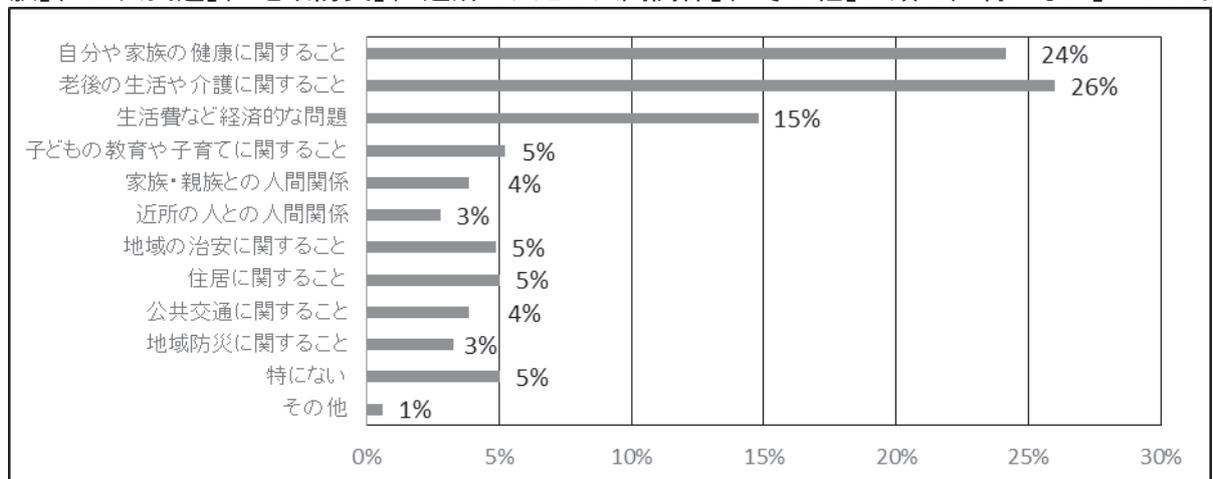
【問14 問11で「ボランティアグループの活動」に参加した方の理由は？】

参加した理由では、「友人や知人に誘われて」が38%と最も多く、「前々から関心があって自発的に」が24%、「地域の困っている人の助けになりたい」が20%、「自分のためになると思って」が16%で、「時間的な余裕ができた」が2%の順である。



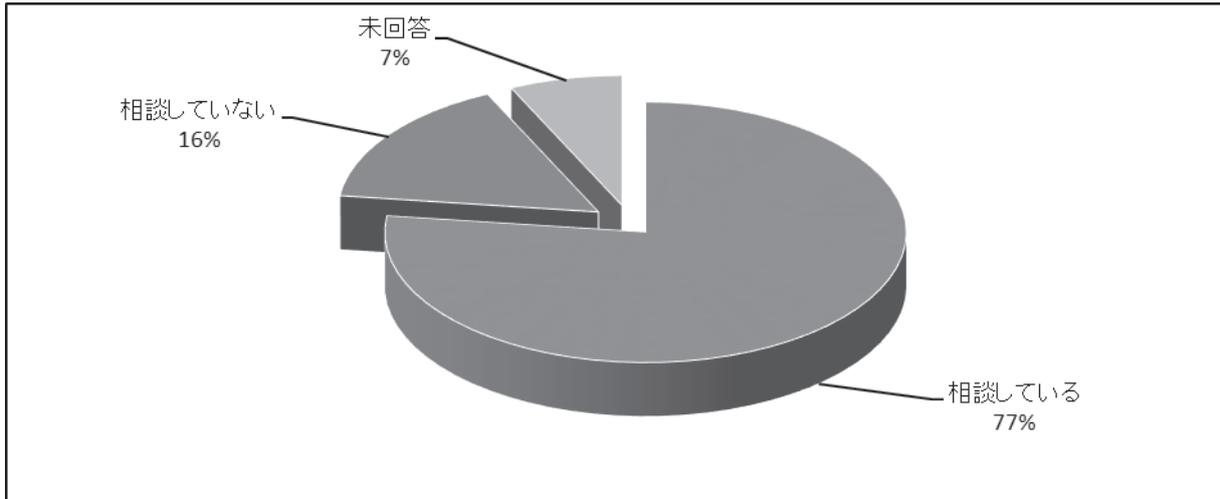
【問15 あなたは、日常生活で日頃不安と思っていることは？】

「老後の生活や介護に関すること」が26%、「自分や家族の健康に関すること」が24%で過半数をしめている。次に、「生活費など経済的な問題」が15%で、「子どもの教育や子育て」、「地域の治安」、「住居」、「家族・親族」、「公共交通」、「地域防災」、「近所の人との人間関係」、「その他」の順で、「特にない」が5%である。



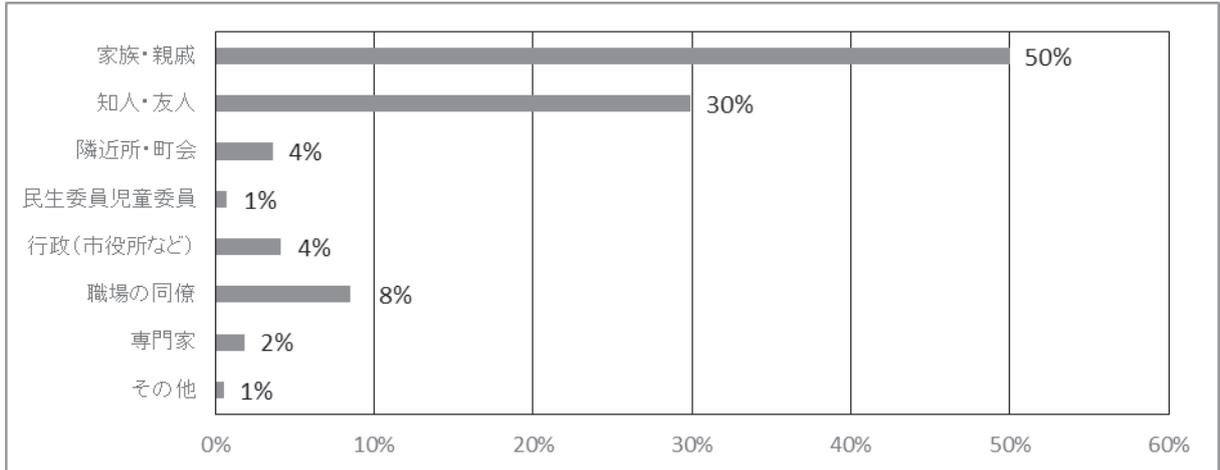
【問16 あなたは、困った事を誰かに相談しているか？】

約 3/4 の方が「相談している」で 77%であり、「相談していない」は 16%である。



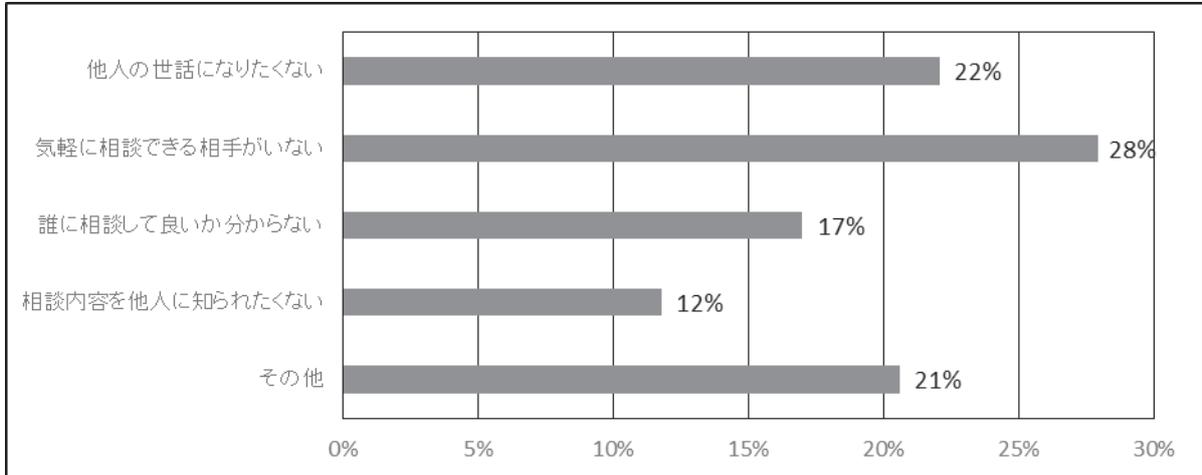
【問17 問16で「相談している」方は誰に相談していますか？】

「家族・親族」が 50%で最も多く、次に「知人・友人」の 30%、「職場の同僚」が 8%、「行政(市役所など)」、「隣近所・町会」、「専門家」、「民生委員児童委員」の順である。



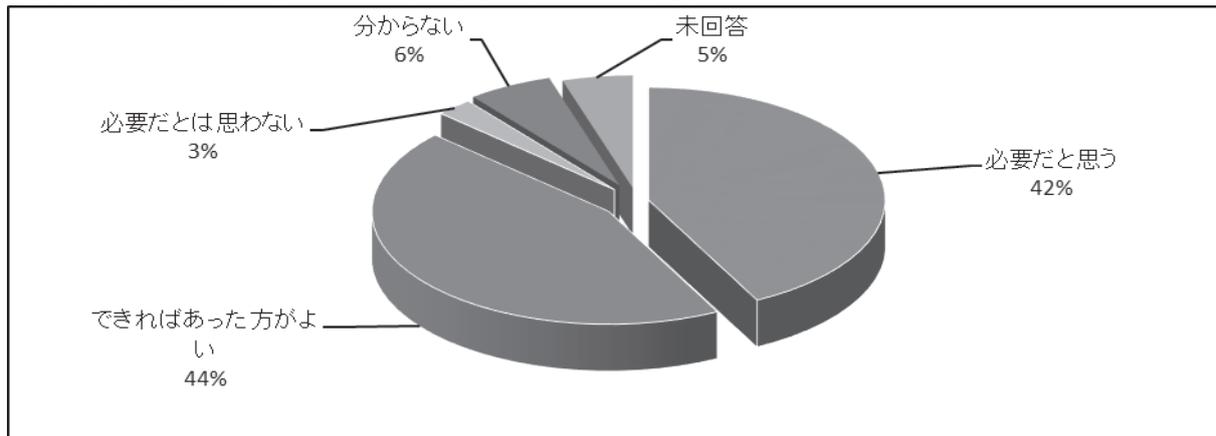
【問18 問16で「相談していない方」の理由は？】

「気軽に相談できる相手がない」が 28%、「他人の世話になりたくない」が 22%、「誰に相談して良いか分からない」が 17%、「相談内容を他人に知られたくない」が 12%、「その他」が 21%の順である。



【問19 地域の様々な福祉分野の生活課題に対し、地域住民の支えあい、助け合いの必要性は？】

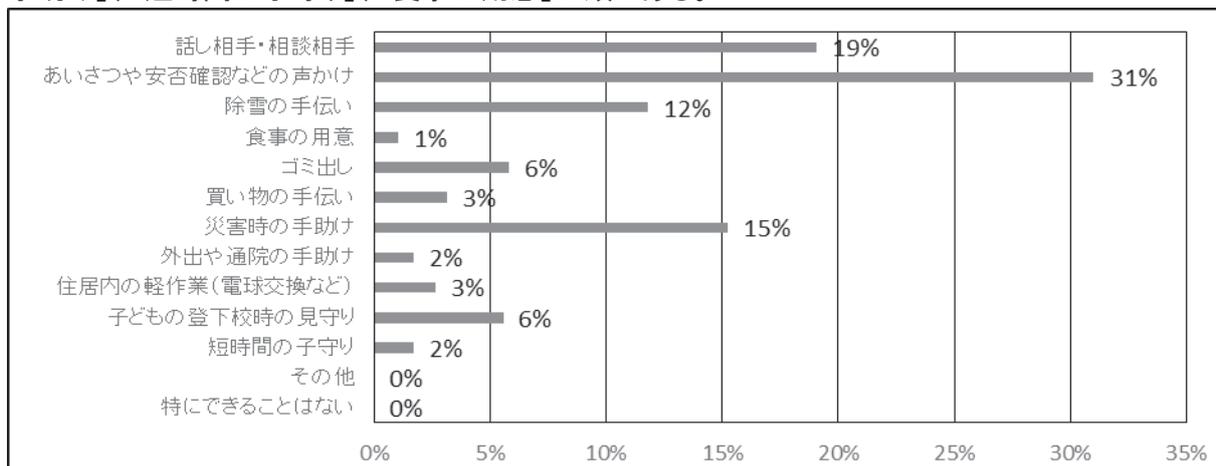
「必要だと思う」が 42%、「できればあった方がよい」が 44%で、合わせて 86%が必要と思っている。
「必要だとは思わない」が 3%、「分からない」が 6%である。



【問20 問19で「必要」や「あった方がよい」と回答の方が支援や協力できることは？】

手助け」が 15%、「除雪の手伝い」が 12%である。

次に、「ゴミ出し」、「子どもの登下校時の見守り」、「買い物の手伝い」、「住居内の軽作業」、「外出や通院の手助け」、「短時間の子守り」、「食事の用意」の順である。

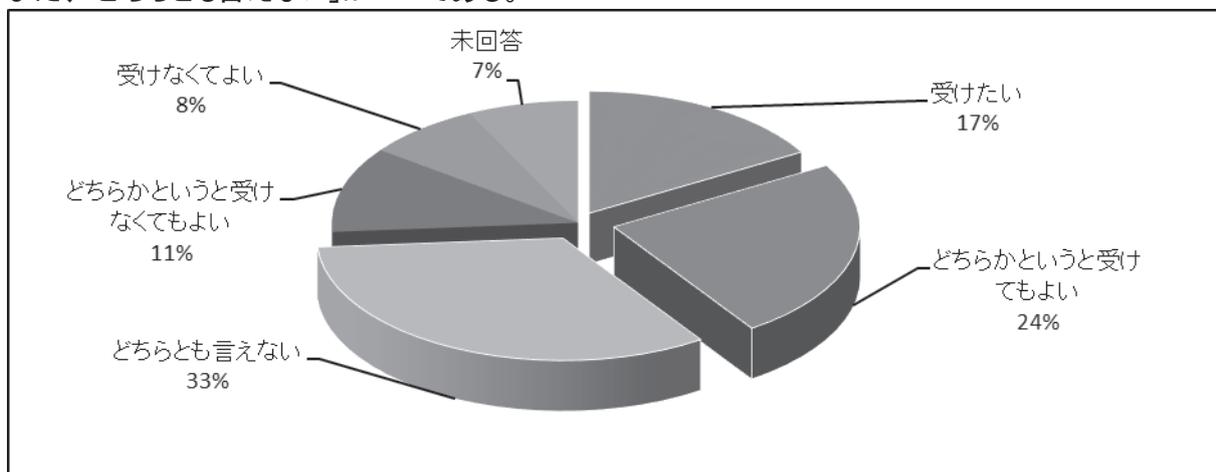


【問21 あなたは、問20の例示のような地域住民による支援や協力を受けたいと思うか？】

「受けたい」が 17%、「どちらかというともよい」が 24%、合わせて 41%である。

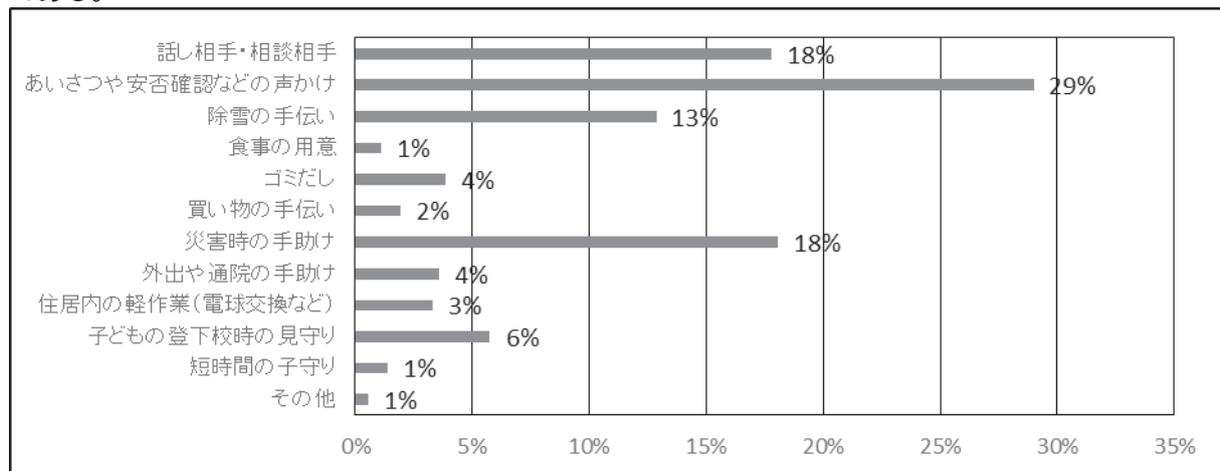
「受けなくてよい」が 8%、「どちらかというとも受けなくてよい」が 11%、合わせて 19%である。

また、「どちらとも言えない」が 33%である。



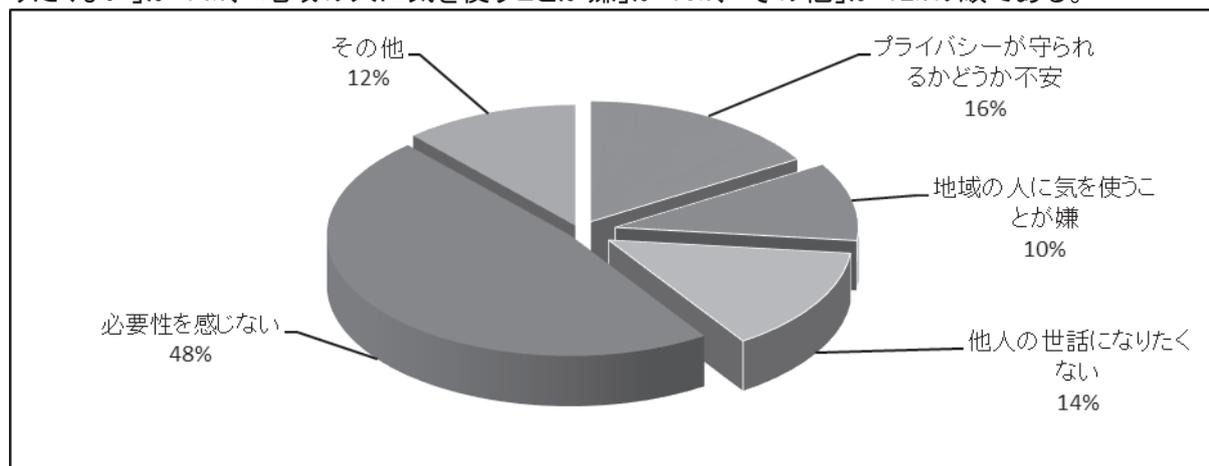
【問22 問21で「受けない」や「受けてもよい」の方は支援や協力を受けたい内容は何ですか？】

「あいさつや安否確認などの声かけ」が 29%と最も多く、次に「話し相手・相談相手」と「災害時の手助け」がそれぞれ 18%である。次に「除雪の手伝い」が 13%、「子どもの登下校時の見守り」等のきめ細かな支援や協力である。



【問23 問21で「受けなくてよい」や「どちらかという受けなくてよい」の方の理由は何ですか？】

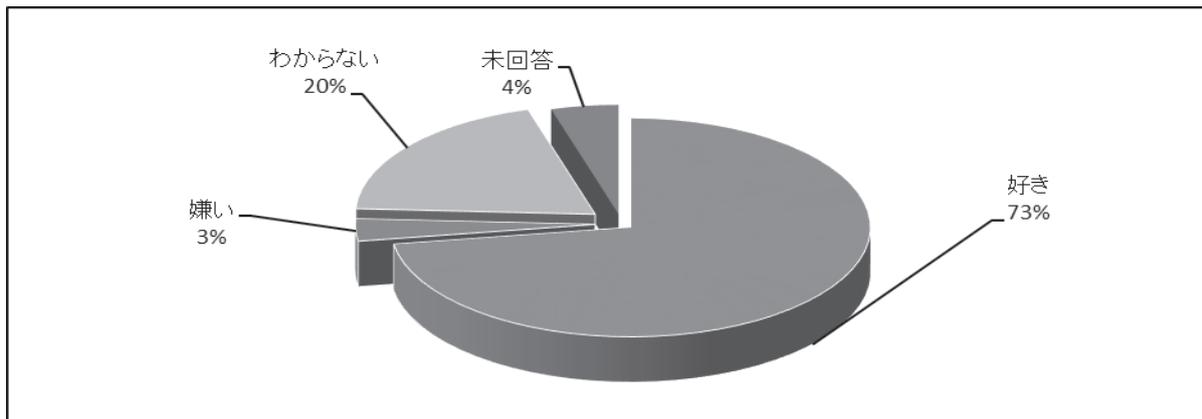
「必要性を感じない」が 48%で最も多く、次に「プライバシーが守られるかどうか不安」が 16%、「他人の世話になりたくない」が 14%、「地域の人に気を使うことが嫌」が 10%、「その他」が 12%の順である。



■かほく市について

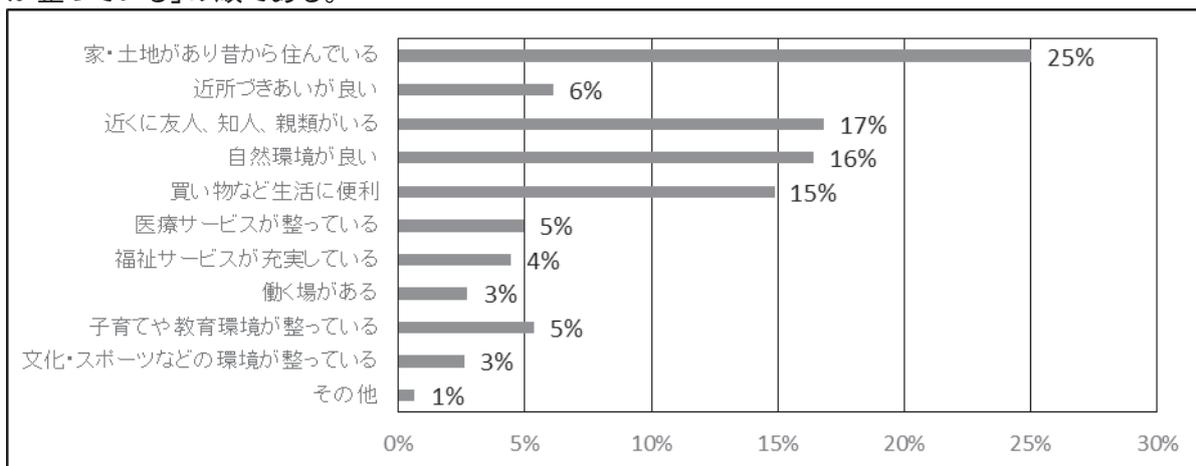
【問24 あなたは、かほく市が好きですか】

「好き」が73%と圧倒的に多く、「嫌い」が3%で、「わからない」が20%である。



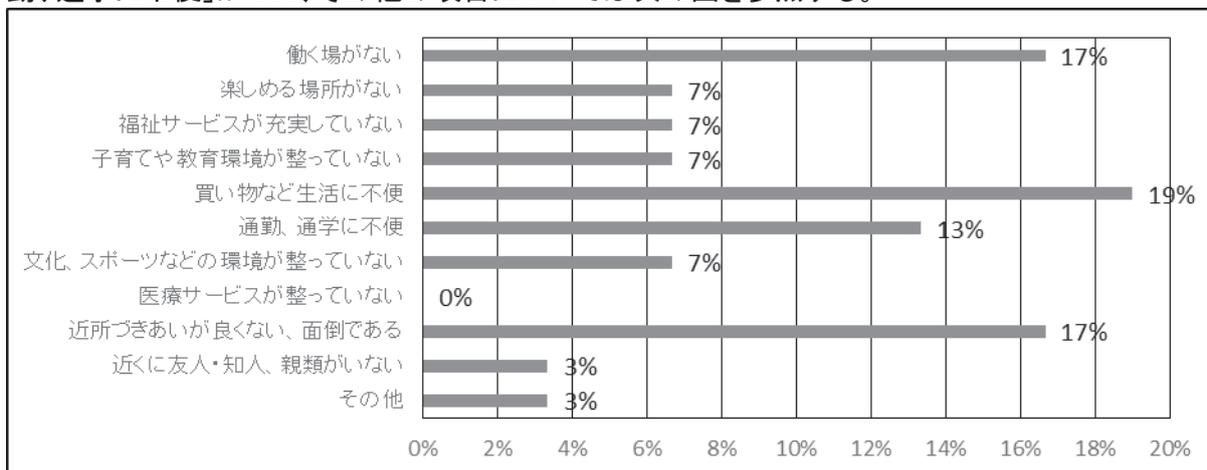
【問25 問24で「好き」の方は、かほく市のどこが好きですか？】

「家・土地があり昔から住んでいる」が25%と多く、「近くに友人、知人、親類がいる」が17%、「自然環境が良い」が16%、「買い物など生活に便利」が15%、「近所づきあいが良い」、「医療サービスが整っている」、「子育てや教育環境が整っている」、「福祉サービスが充実している」、「働く場がある」、「文化・スポーツなどの環境が整っている」の順である。



【問26 問24で「嫌い」の方は、かほく市のどこが嫌いですか？】

「買い物など生活に不便」が19%、「働く場がない」と「近所づきあいが良くない、面倒である」がともに17%、「通勤、通学に不便」が13%、その他の項目については次の図を参照する。

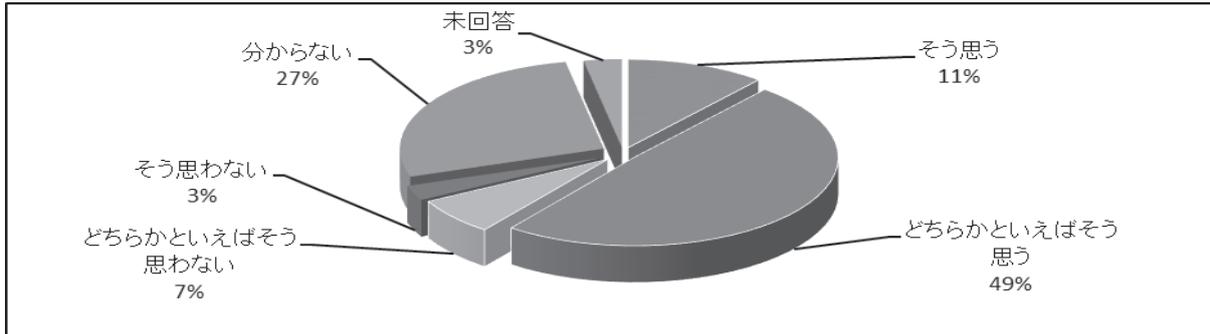


【問27 かほく市はどのようなまちだと思いますか？】

☆地域で支えあい自立できるまち

「そう思う」が 11%、「どちらかといえばそう思う」が 49%で、合わせて 60%である。

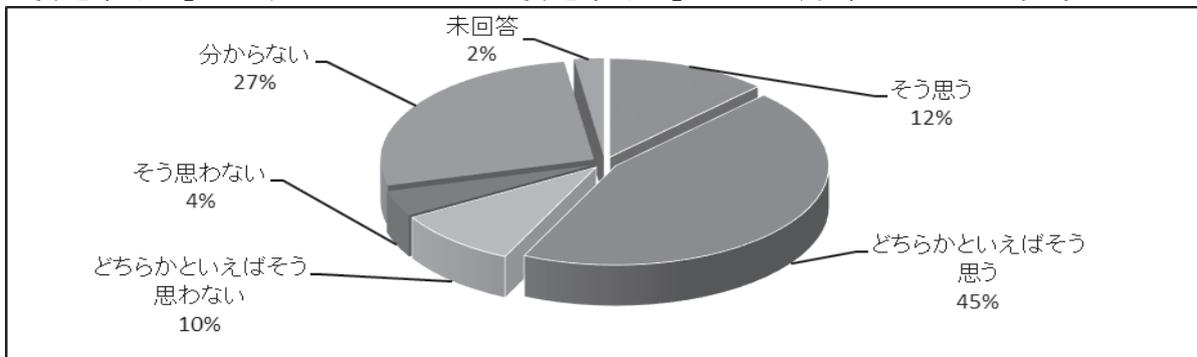
「そう思わない」が 3%、「どちらかといえばそう思わない」が 7%で、合わせて 10%である。



☆高齢者が生きがいを持って元気に過ごせるまち

「そう思う」が 12%、「どちらかといえばそう思う」が 45%で、合わせて 57%である。

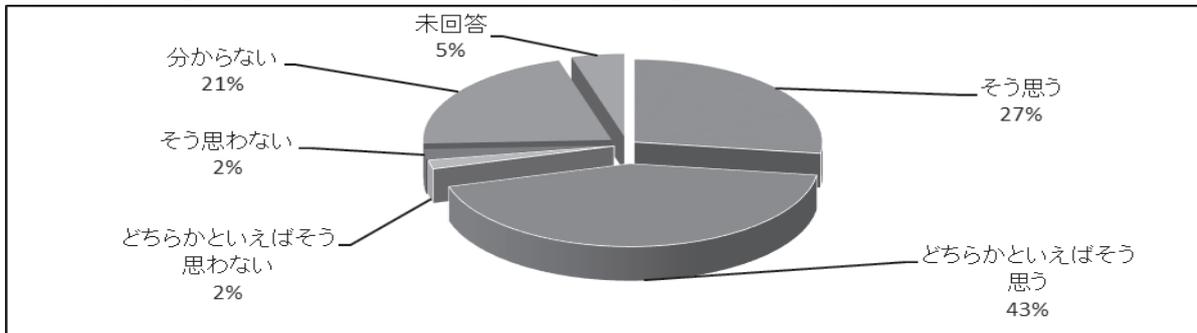
「そう思わない」が 4%、「どちらかといえばそう思わない」が 10%で、合わせて 14%である。



☆安心して子育てのできるまち

「そう思う」が 27%、「どちらかといえばそう思う」が 43%で、合わせて 70%である。

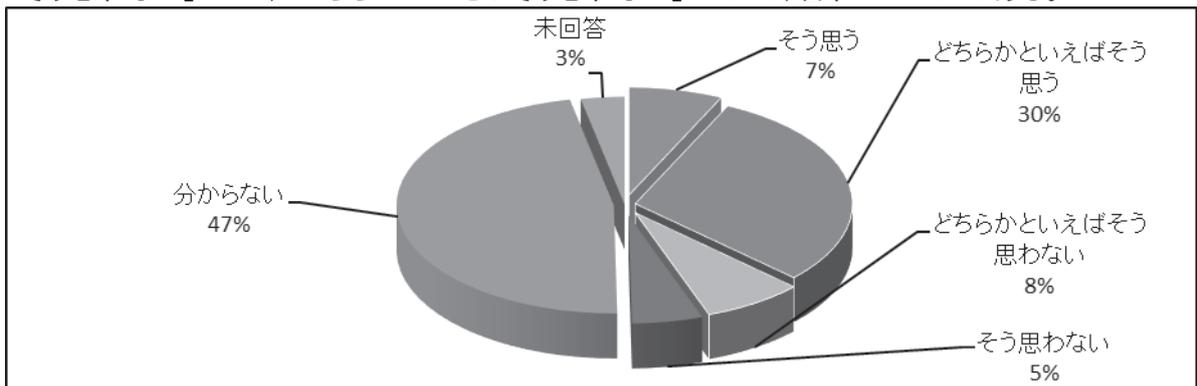
「そう思わない」が 2%、「どちらかといえばそう思わない」が 2%で、合わせて 4%である。



☆障がいのある人が自立と社会参加を目指す思いやりのまち

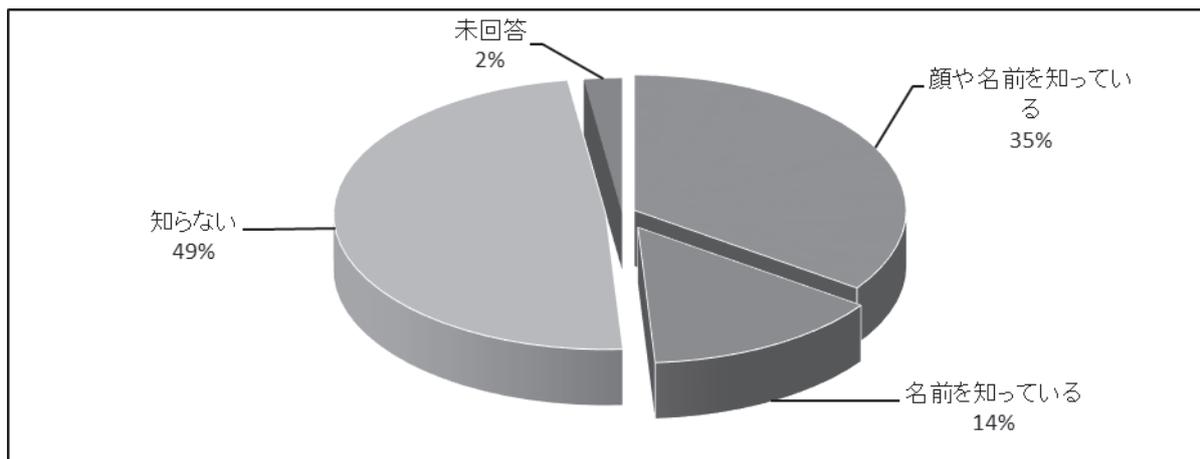
「分からない」が 47%である。「そう思う」が 7%、「どちらかといえばそう思う」が 30%で、合わせて 37%である。

「そう思わない」が 5%、「どちらかといえばそう思わない」が 8%で、合わせて 13%である。



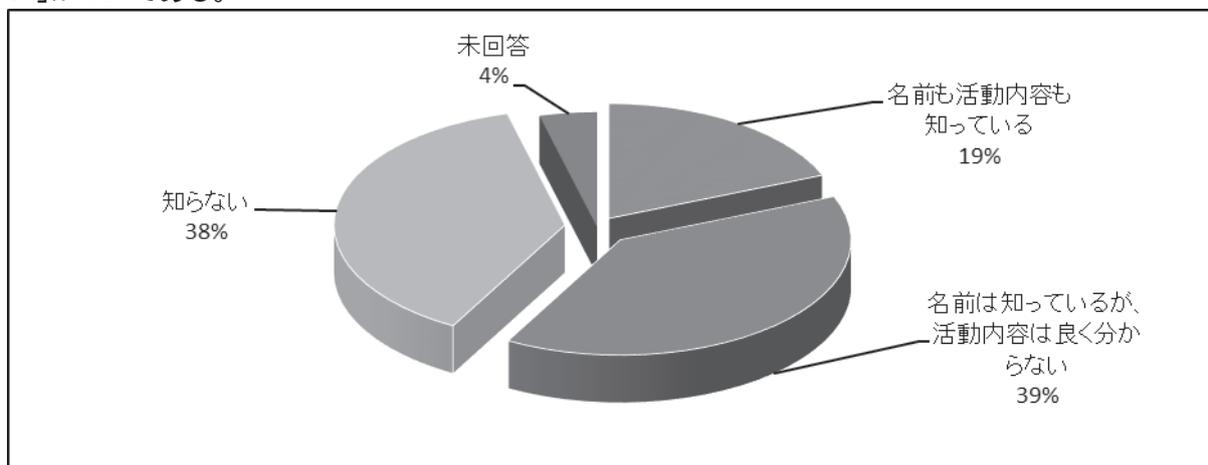
【問28 あなたは、地区を担当している「民生委員児童委員」を知っていますか？】

「顔や名前を知っている」が35%、「名前を知っている」が14%、「知らない」が49%である。



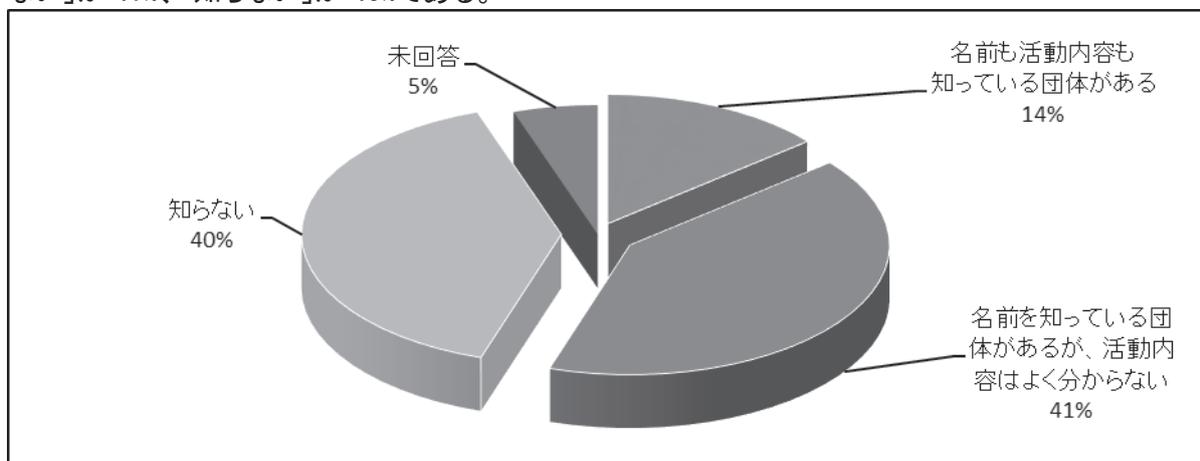
【問29 あなたは、「社会福祉協議会」を知っていますか？】

「名前も活動内容も知っている」が19%、「名前を知っているが、活動内容は良く分からない」が39%、「知らない」が38%である。



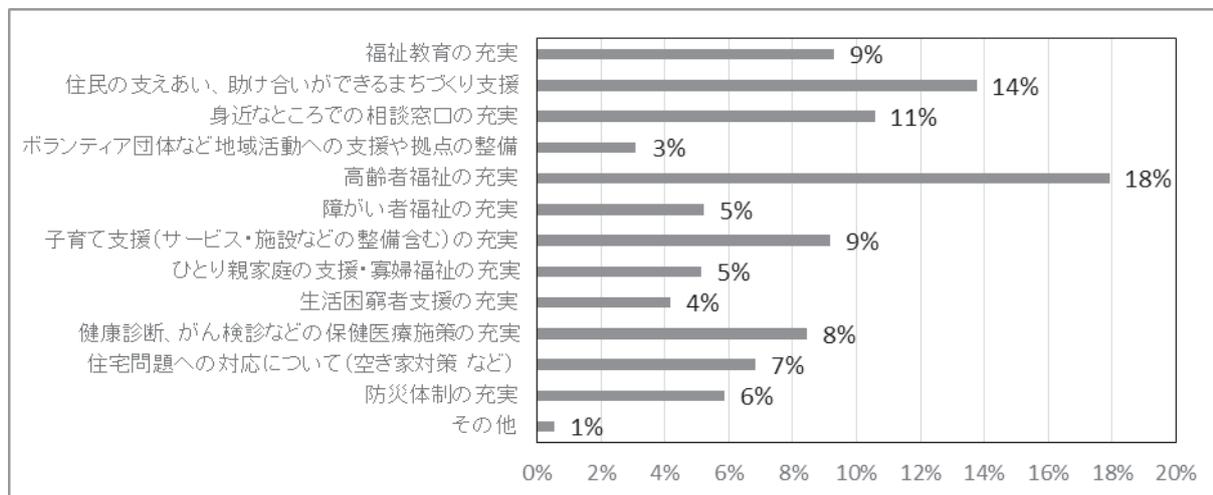
【問30 あなたは、地域づくりが目的の「NPO法人」を知っていますか？】

「名前も活動内容も知っている団体がある」が14%、「名前を知っている団体があるが、活動内容はよく分からない」が41%、「知らない」が40%である。



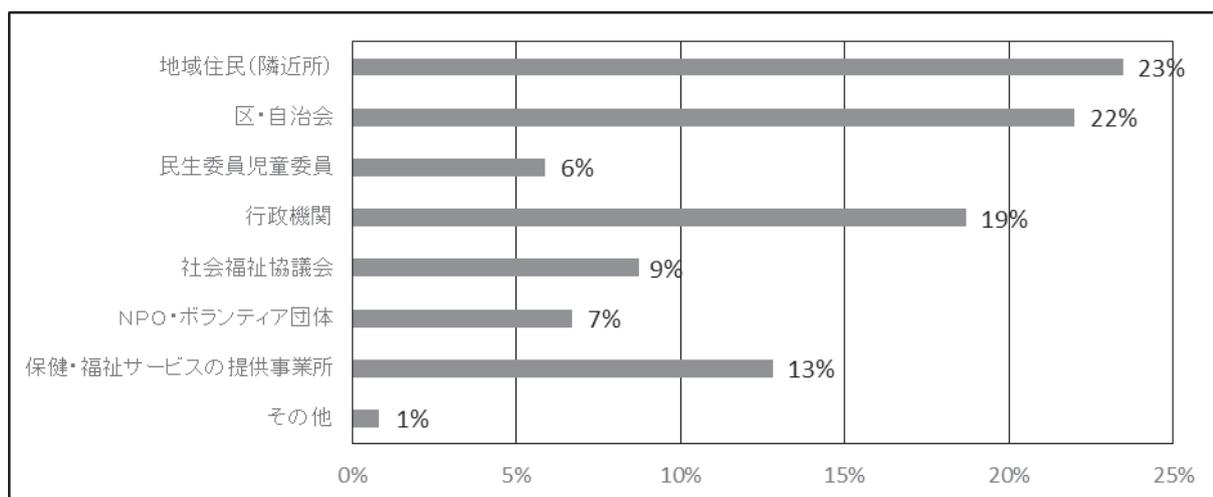
【問31 これからのかほく市にとって特に重要な福祉課題】

「高齢者福祉の充実」が18%で最も多く、「住民の支えあい、助け合いができるまちづくり支援」が14%、「身近なところでの相談窓口の充実」が11%、「福祉教育の充実」と「子育て支援の充実」が9%の順である。その他の福祉課題については次の図を参照する。



【問32 かほく市の地域づくりの担い手にふさわしい人や団体は？】

「地域住民(隣近所)」が23%、「区・自治会」が22%、「行政機関」が19%、「保健・福祉サービスの提供事業所」が13%、「社会福祉協議会」が9%、「NPO・ボランティア団体」が7%、「民生委員児童委員」が6%である。



補足説明

「(1) 社会福祉協議会の取り組み」(32・33 ページ)に掲載しているそれぞれの事業や用語についての説明です。

地域のお茶の間活動(サロン活動)の推進
・ 地域のお茶の間活動(サロン活動) 地域のつながりづくりを目的に、地域住民なら誰でも気軽に交流することができる集いの場のことです。福祉団体や福祉関係者、地域住民などが自主的に運営しています。全国的には、ふれあいサロンやいきいきサロン、コミュニティカフェなどといった名前で普及しています。
福祉交流事業の開催
・ 障がい者交流スポーツ大会 かほく市内で日頃から福祉団体・グループに所属して活動している方や福祉事業所を利用する方、関係者などが、スポーツを通じて交流や親睦を深めることで、仲間づくり・情報交換・連携強化を進めるため開催しています。
・ 聴覚障害者等を対象とした生活教室 日頃、講習会等への参加が難しい聴覚に関連する障害者手帳をお持ちの方などを対象に、健康増進や生涯学習、生活に関連する教室を開催しています。また、手話が可能な方にも参加していただき、広い交流を進めています。
地域座談会の開催
・ 地域座談会 地域に暮らす住民が集まって、日頃の生活での困りごと等について話しあって、その困りごとを解決するための取り組みができる地域を目指して、小学校区単位で開催しています。
福祉教育の推進(児童生徒)
・ ジュニアボランティア体験事業(小学生) 小学生を対象に、ボランティア体験を通して思いやりの心を育てるとともに、ボランティア活動について知るきっかけとし、将来にわたって地域の福祉活動に積極的に参加していく意欲を育てることを目的に開催しています。
・ ジュニアボランティアサークル(中学生) ボランティア活動を通して、地域とのつながりを深め、中学生自身が主体となった社会参加を推進することで、社会の一員として考えて行動する力を養い、思いやりのこころを育むことを目的に実施しています。
福祉教育の推進(地域)
・ 福祉教育事業 地域住民が、福祉に対して関心・意識をもち、また地域の課題を解決・改善できる実践力を身につけられるよう、「気づく心」を育む場、福祉や地域課題について学ぶ機会として福祉教育事業を開催しています。

ボランティア活動の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア登録者 かほく市社会福祉協議会ボランティアセンターに登録するボランティア活動者をさします。 ・ 市ボランティア連絡協議会 かほく市内で活動しているボランティア団体が、お互いの情報・意見の交換などで交流を深め、ボランティア団体間の連携を図ることで、ボランティア活動の活性化と地域福祉の向上を目的として設置しています。
防災・減災活動の推進
<ul style="list-style-type: none"> ・ つながり仕掛隊 自治会や自主防災会等が開催する防災・減災活動等に、かほく市社会福祉協議会職員を「つながり仕掛隊」として派遣し、地域の防災力の向上や地域での日常からのつながりづくり、住民との協働の地域づくり、社会福祉協議会の理解を進めることを目的に実施しています。
見守り活動・見守りネットワークに対する支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉推進員 無理なくできる程度の援助や相談活動などやふれあいを通じて、支援を必要とする方が安心して暮らすことができるよう見守るために地域福祉推進員を設置しています。住民の立場に立って相談に応じ必要な援助を行う民生委員児童委員に協力しています。 ・ 地域福祉推進チーム連絡会 自治会単位の小地域で、民生委員児童委員と地域福祉推進員が、一体となった見守り活動（地域福祉推進チーム）を展開していくために開催する連絡会です。
権利擁護体制の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・ 権利擁護に関する相談 かほく市社会福祉協議会では、物事の判断をするうえで支援を必要とする方や日常生活課題を抱える方に対して権利を守るため、福祉サービス利用支援事業や成年後見制度等の公的支援の活用といったすき間のない支援を実施しています。適切に制度につなぐことができるよう相談窓口を設置しています。
総合相談機能の充実
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉なんでも相談 どこで相談すればよいのか分からない方、匿名で相談したい方などが、気軽に相談できる窓口として随時対応します。

第2次 かほく市地域福祉活動計画

発行日 2019年(平成31年)3月
編集・発行 社会福祉法人 かほく市社会福祉協議会
住所 〒929-1173 かほく市遠塚口 52-10
電話 076-285-8885 FAX 076-285-2049